



HATANODAI CAMPUS
旗の台キャンパス

医学研究科 歯学研究科 薬学研究科



SENZOKU CAMPUS
洗足キャンパス

歯学研究科



YOKOHAMA CAMPUS
横浜キャンパス

保健医療学研究科

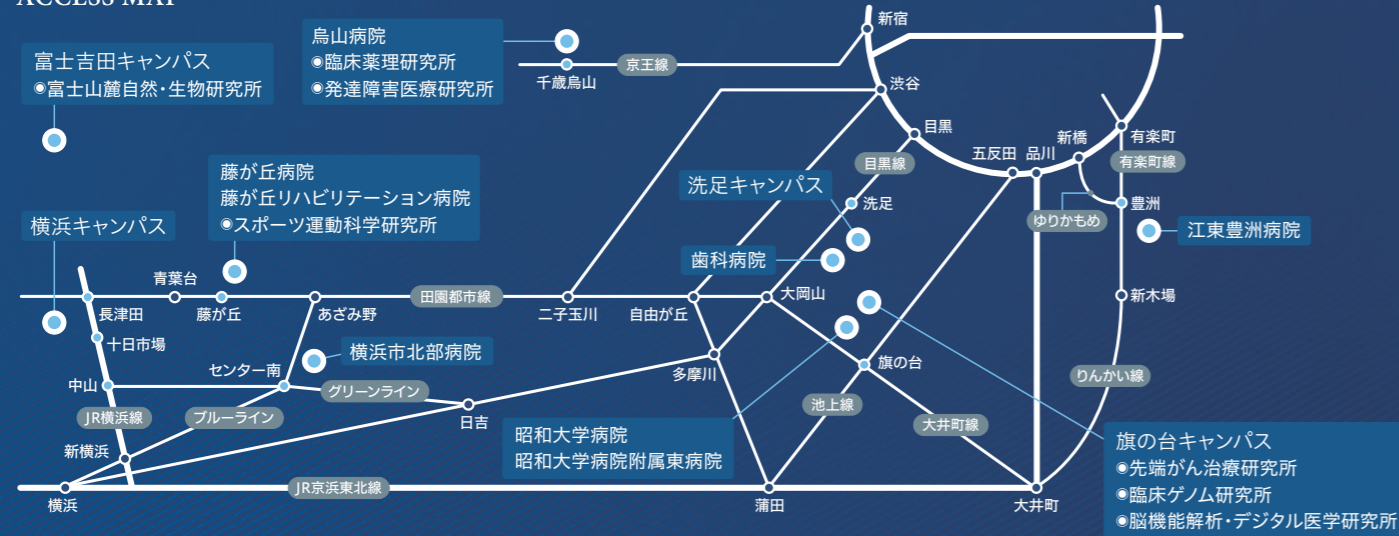
2024
GUIDE BOOK

昭和大学 大学院

SHOWA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

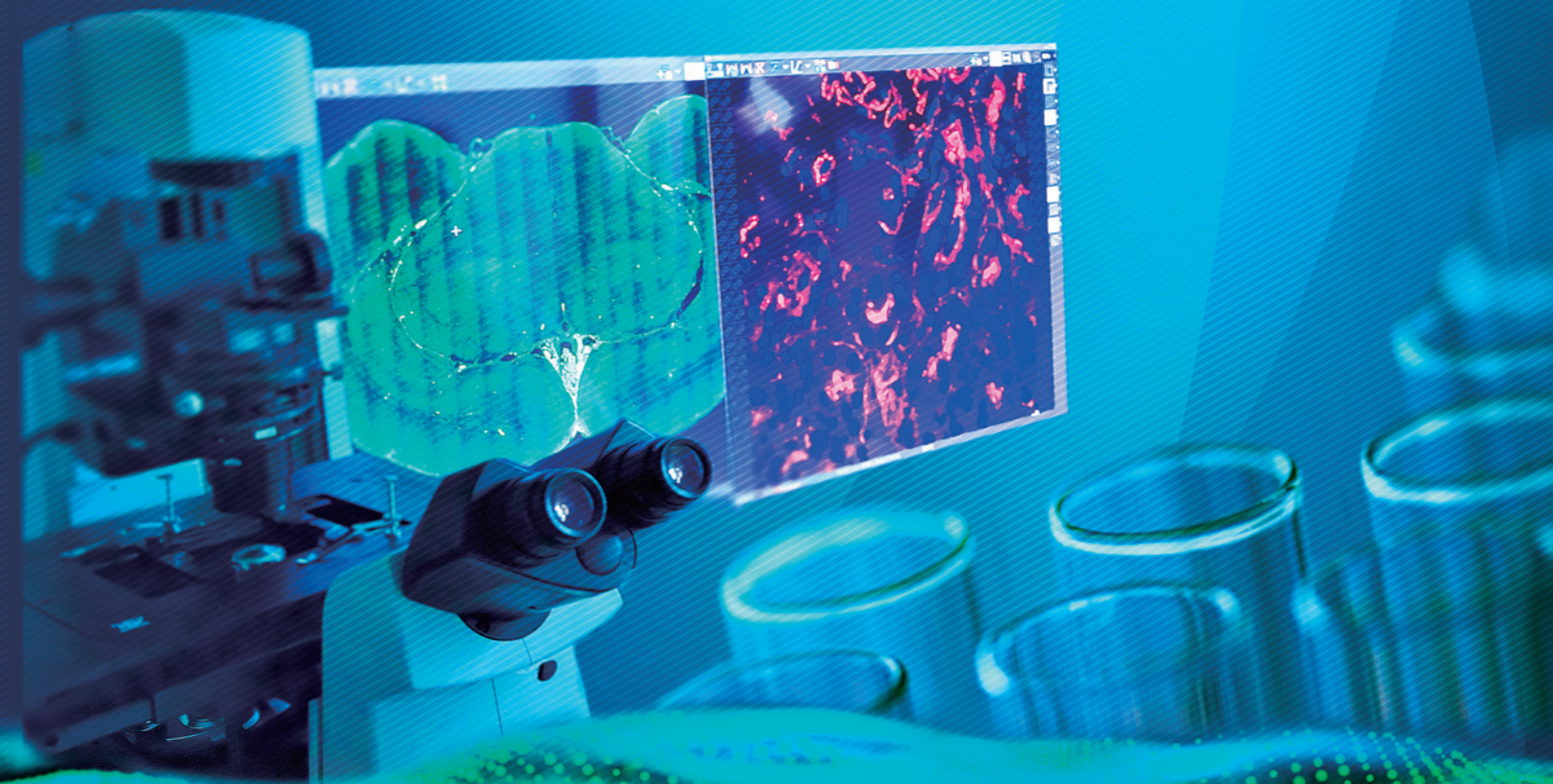
- GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE
- GRADUATE SCHOOL OF DENTISTRY
- GRADUATE SCHOOL OF PHARMACY
- GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

ACCESS MAP



昭和大学 大学院

医学研究科 / 歯学研究科 / 薬学研究科 / 保健医療学研究科
www.showa-u.ac.jp



本学は「社会の文化と公共の福祉に貢献する」ことを学則にうたい、
何よりも国民の健康に寄与することを大きな目標に、
建学の精神である『至誠一貫』を体現する教育・研究に努めています。



上條 秀介
Shusuke Kamijo

「至誠一貫」の精神

昭和大学は創立後まもなく、『至誠一貫』の方針を掲げました。

創立者の上條秀介博士は、「社会に役立つ医師や医療職になろうとする一貫した至誠の理想を体得するならば、学生諸君はおのずから真剣となり努力せずにはいられないはずだ、自粛自制をもって『至誠一貫』の真の精神を日常の実践に活かしてもらいたい」と学生を鼓舞しました。

『至誠一貫』は単なる標語ではなく、学問を学び、医療に携わる一人ひとりの確固たる信念を指していたのです。博士は入学式においても、「古語に曰く『医は仁なり』すなわち、この仁の気持ちは至誠であります。将来、悩める人に接する医者に、この気持ちが絶対に欠けてはならないのであります。この至誠をどこまでも貫くということを我らは片時も忘れてはならない。『至誠一貫』は本校の校是であり同時に校風なのであります」と述べています。

医療分野の未来を拓く皆さんへ

本学大学院には、医学研究科博士課程（4年）、歯学研究科博士課程（4年）、薬学研究科博士課程（4年）、保健医療学研究科博士前期課程（2年）および博士後期課程（3年）の4研究科があります。

その大きな特徴は、4研究科が揃う医系総合大学の大学院であり、それぞれの研究科が壁を作らず研究活動を行えることです。

また、最高水準の設備とスタッフを擁する8つの附属病院には、研究と教育の両面で最良の環境が整っており、臨床と基礎が密に連携して研究を進めています。

現在、本学大学院では修士生が毎年約100名を数え、4研究科それぞれの分野の未来を拓く研究者や指導者として社会に貢献する優れた医療人を輩出しています。

ぜひ、本学大学院で、皆さんの若いエネルギーと貴重な時間を有意義に使い、後世に残る研究成果を挙げていただきたいと思います。

President of
Showa University

昭和大学 学長

久光 正

Tadashi Hisamitsu



ADMISSION POLICY アドミッション・ポリシー

昭和大学大学院は「至誠一貫」の精神をもとに、
より高度な医療や研究に進進し、人類の幸福に貢献する人材の育成をめざしています。
入学選抜にあたり、私共は次のような多様な学生・社会人を広く求めます。

- 医療・健康・生命科学の専門知識を深く追求する意欲のある人
- 常に探究心を持ち、先進的な医療を担う意欲のある人
- 自らの活動領域を拡げ、医系総合科学を発展させる意欲のある人
- さまざまな分野の専門家と共に、先端的・独創的な研究を志す人
- 社会での実践から得た知識と経験を体系化し還元する意欲のある人
- 国際的視野を持ち、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性を持つ指導者を志す人

SHOWA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

Graduate School of Medicine

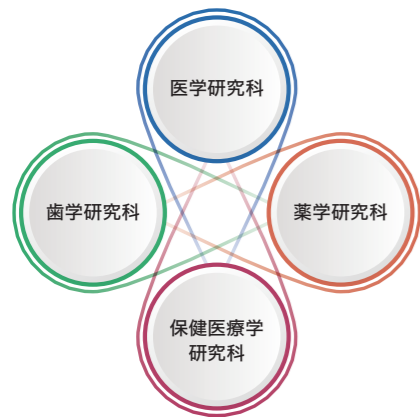
Graduate School of Dentistry

Graduate School of Pharmacy

Graduate School of Health Sciences



大学院の魅力



01 4つの研究科と8附属病院が連携、ボーダレスな研究環境

昭和大学大学院の特色は、医学・歯学・薬学・保健医療学の4つの研究科がそれぞれの専門領域を超えて、連携し合える環境にあります。

さらに8つの附属病院と連携し、数多くの症例や臨床データを科学的なアプローチで究明したり、あるいは基礎研究で得られた発見を臨床に応用するなど、臨床と基礎が融合した研究環境が整っています。

02 医療人と大学院生が両立できるプログラム 社会人受入制度

昭和大学大学院では、社会人の受入れを積極的に推進しています。平日の日中は医療人として専門分野で勤務をしながら、平日の夜間および土日に開講される講義を受講することで単位を修得できるよう、各研究科ともにカリキュラムを整備しています。さらに、オンライン授業の取り組みも進めています。また、臨床研修医、臨床研修歯科医、臨床研修薬剤師も社会人として入学し、基礎系科目を専攻することが可能です。

03 充実した施設と支援で高度な研究に対応

各研究科・講座の研究室のほかに、高度な研究に対応した、共同で使える施設があります。私立大学では有数の機器もそろい、施設スタッフのサポートのもと大学院生も活用できます。

また統括研究推進センターでは研究に関するさまざまな支援が受けられます。セミナーやワークショップのほか、個別の研究の相談、論文執筆の支援も行って、大学院生にも開かれています。

共同研究施設、支援の詳細は > P.16

多分野の研究者との出会いから
新しい地平線が見えてくる

中野 僚太さん
薬学研究科 毒物学 4年次
Graduate School of Pharmacy



ADHD治療薬のメチルフェニデートが次世代に与える影響を探る

注意欠陥多動性障害(以下、ADHD)の第一選択薬であるメチルフェニデートは、小児期から成人期まで長期服用される薬です。薬学研究科で博士論文に取り組む中野僚太さんは、父親がこの薬を長期間服用した場合、子どもにどのような影響をもたらすかについて、マウスを使って研究しています。

「もともと遺伝子やゲノムに興味があり、指導教員の沼澤聡教授のアドバイスも受けながらこのテーマを選びました。将来、この研究のアウトカムが患者さんに還元されるかもしれないということにも魅力を感じました」

中野さんが研究を行っている「薬理科学研究センター」は、薬学研究科だけではなく、医学研究科、歯学研究科の研究者も所属しており、さまざまな分野のエキスパートと情報交換をしたり、交流したりできる機会があります。

「遺伝子の発現について深掘りした実験を行いたいと考えていたとき、アドバイスいただいたのがリウマチ・膠原病内科医師で臨床免疫腫瘍学の細沼先生でした。ももとの研究計画にはなかった次世代シーケンサーを使って、組織の切片からタンパク質の発現を網羅的に解析してみようかと提案していただきました。細沼先生とはほぼ毎日のように話をする機会があり、廊下ですれ違ったときはもちろん、お互いにサウナが好きなので、実験結果が出るまでの待ち時間に抜け出して、研究の話で盛り上がることもよくありました」

中野さんがお世話になった先生はほかにも多くいます。たとえば、東工大から移ってきた歯学研究科の茶谷先生。中野さんが大学生の頃から一緒に研究していた中で、PCRをするときに使うプライマーの設計のコツなど実践的なアドバイスをいただいたそうです。また医学部の顕微解剖学の先生からは、顕微鏡のレーザーマイクロディセクションという手技について指導を受けることができました。

「組織を固定した後に、パラフィンで固めて、それを切り出して薄い切片をつくります。その後、切片の上の細胞をレーザーで切り出すことで標的細胞内のたんぱく質を定量できます。それは毒物学では扱わないテクノロジーでした」

大学院で経験した研究者との交流を教員として後輩にも還元したい

もちろん中野さんは、所属する毒物学の教員からもきめ細かな指導を受けました。講師の光本先生からは、おもにマウスの行動試験についての指導をいただきました。



「マウスをどの装置の中で何分間、慣れさせたいか？ 光の具合はどのようにしたらいいか？ など、細かく実践的なコツを教えていただきました。ほかにもマウスの交配率の上げ方や薬物の経口投与といった教科書には載っていないコツをたくさんかぎましたし、実験データを解析するソフトウェアで疑問があったときもすぐに教えていただきました」

沼澤教授からは遺伝子解析の方法や実験結果の解釈について指導を受け、学会発表やスライドの表記、強調すべきポイントなど、研究手法以外の面でも手厚いサポートを受けました。

「中野さんの研究はこれまで手つかずの分野でした。長期間にわたり薬を服用して、子どもが生まれたとき、幼少時はわからなくても成長したとき、どのような影響が出るのか。それがわかれば、将来のための対策をすることができ、これからの薬の処方を考えていくときに、とても意義ある研究だと考えています」

博士号を取得した後、中野さんは大学院で教員としてのキャリアを歩み、将来は主任研究員として、自らの研究プロジェクトを推進することをめざしています。

「薬学部の先生方は、研究はもちろん教育についても大きく注力しています。私も教員になったとき、薬理科学研究センターで出会った研究者たちのように、後輩たちに知見を惜しみなく共有できるようになりたいですね」

大学院時代に知り合った研究者で、臨床にもどった先生とも交流を続け、臨床の視点を自らの研究に取り入れ、基礎研究のテクニックを提供したり、薬理科学研究センターで培ったネットワークも存分に活用していきたいと考えています。すでに細沼先生とは新しい共同研究を進めています。

昭和大学では、薬理科学研究センターに続いて、将来はすべての分野を統合して研究センター化していく構想があります。多領域の研究者たちが出会うことによって、どんな研究成果が生まれるのか期待されます。



沼澤 聡 教授
指導教員 (薬学研究科 毒物学)

※学年・役職は2023年3月現在

医学研究科

博士課程医学専攻

個々が能力を十分に発揮できる研究環境と 社会人大学院生に対する積極的なサポート

本医学研究科は、最先端の基礎研究、臨床研究の分野で活躍する指導教員が、医療、医学研究の担い手として、指導者として活躍する人材を育成しています。生命科学・医学研究者をめざす人、高度な専門知識と技術を持った臨床医をめざす人、医学部以外出身者で出身学部の特性を生かした医学研究者をめざす人などに広く門戸を開き、社会および医学・生命科学の課題に対し、個々が能力を十分に発揮できる研究環境を備えています。また、昭和大学には、昭和大学病院をはじめとする8附属病院と専門的な各研究所があり、最先端の分野で活躍する教員と充実した設備を備えています。

指導教員は、講義、演習、実習、学会発表や学位論文の作成等に対する指導を通して、大学院生が深い洞察力および専門的知識と技術を修得できるよう支援します。さらに、研究分野に関わらず、大学院生は「共通科目」を履修し、医学研究に共通して必要な知識や技術を修得します。また、大学院修了後には自らの学識を他者に教授する機会が多く見込まれるため、指導者としての教育能力を育むプログラムを用意しています。

本医学研究科は、社会で働いている方々を積極的に受け入れています。教員は社会人大学院生への指導経験も多く、充実した大学院生活が送れるよう積極的にサポートします。皆様が昭和大学大学院医学研究科で研鑽を積み、医療、医学研究の担い手として、そして指導者として大いに活躍することを願っています。



Masahiko Izumizaki
研究科長 泉崎 雅彦



研究の現場を訪ねて

アルツハイマー病の進行を抑え、 広く使える天然成分を研究

◆ 医科薬理学

4年次

院生

大橋 英朗さん

指導

教員

辻まゆみ 教授

▶ 研究分野および指導教員 (2023年4月1日現在)

顕微解剖学	本田 一徳
肉眼解剖学	大塚 成人
生体制御学	砂川 正隆
生体調節機能学	泉崎 雅彦
生化学	宮崎 章
臨床病理診断学	矢持 淑子
医科薬理学	木内 祐二
臨床薬理学	内田 直樹
微生物学免疫学	伊與田雅之
衛生学公衆衛生学	小風 暁
法医学	松山 高明
医学教育学	泉 美貴

呼吸器アレルギー内科学	相良 博典
リウマチ・膠原病内科学	矢嶋 宣幸
糖尿病・代謝・内分泌内科学	山岸 昌一
消化器内科学	吉田 仁
循環器内科学	新家 俊郎
腎臓内科学	本田 浩一
血液内科学	服部 憲路
脳神経内科学	村上 秀友
腫瘍内科学	角田 卓也
緩和医療科学	横山 和彦
臨床感染症学	時松 一成
リハビリテーション医学	川手 信行
皮膚科学	猪又 直子
小児内科学	水野 克己
小児循環器内科学	富田 英
精神医学	岩波 明
放射線科学	畠谷 芳光
放射線治療学	伊藤 芳紀
総合診療医学	小風 暁(代行)

心血管外科学	青木 淳
小児心臓血管外科学	宮原 義典
呼吸器外科学	武井 秀史
消化器一般外科学	青木 武士
乳腺外科学	林 直輝
小児外科学	渡井 有
脳神経外科学	水谷 徹
整形外科	工藤 理史
形成外科学	門松 香一
産婦人科学	関沢 明彦
眼科学	恩田 秀寿
泌尿器科学	深貝 隆志
耳鼻咽喉科頭頸部外科学	嶋根 俊和
麻酔科学	大江 克憲
集中治療医学	小谷 透
救急・災害医学	土肥 謙二



患者さんの病気を治して幸せにすることが医師の仕事と強調する大橋英朗さん。日々、脳神経内科で診療にあたる中で「自分はすでにできあがった薬を使って病気を治しているにすぎません。薬の開発について、どのように考え、取り進むのかを知りたい」という思いがつのり、大学院で基礎研究を行うことにしました。研究テーマは「アルツハイマー型認知症の治療薬の研究」です。

「アルツハイマー病の治療はここ数年で新しい動きがありました。2021年に抗体薬『アデュカヌマブ』が米国で迅速承認を得て、2023年には日本でも後発薬の『レカネマブ』が新薬承認を申請しました。しかし、これらの抗体薬は1年間に数百万円という薬価になるため、誰もが使えるわけではありません」

そこで大橋さんが目をつけたのは「カレーを食べると認知症になりにくい」という仮説です。これはアメリカ人とインド人を比較したデータも公表され、研究もされています。

「アルツハイマー型認知症はアミロイドβという

異常なタンパク質が脳内に蓄積して、脳神経細胞を変性させることで発症します。このアミロイドβの生成を抑制させる物質として、カレーに使われるスパイスのウコンに含まれる黄色い色素『クルクミン』に注目しました。これに、小麦などに含まれているフェルラ酸を組み合わせることで強い有効性を示すことができるのではないかと考えました。これであれば抗体薬のように高価ではなく、誰もが安全に使える薬になるでしょう」

しかしそれを証明するためには、山のように実験データを積み重ねなければなりません。大橋さんは、実験結果が想定と異なるたびに原因は何であるのか、その要素の多さに頭を痛めたといいます。実験方法が悪かったのか？ 手技の問題か？ ほかに原因はないか？ 何度も実験を繰り返しました。

失敗を積み重ね 研究者になる

大橋さんを指導した辻まゆみ教授は、実験結果をチェックしてはデータを分析し、研究の進行方向についてアドバイスしました。

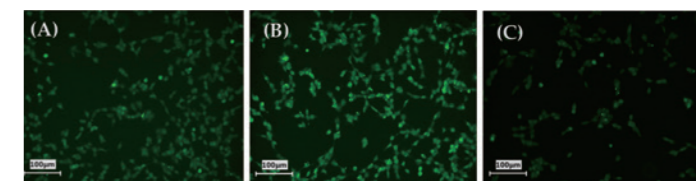
「大橋さんにとっては初めての基礎研究なので、手間取ることも当然あったと思います。大橋さんの実験結果について、よく議論しました。」

先行研究がなく、新しい技術や理論の解明に挑戦するには、自分の実験結果が真実なのか見極められるまで繰り返すことが求められます。その過程が、大学院で学ぶということなのだと思います。このように研鑽を積み重ねて『研究者になる』のでしょうか」

大橋さんの博士論文はインパクトファクター6.2の「International Journal of Molecular Sciences」に掲載されました。ヒトにおけるアルツハイマー型認知症の予防と治療において、クルクミンとフェルラ酸の併用療法が効果的で優れた戦略となる可能性を示唆するものです。

「博士号の取得はあくまで手段です。大学院修了後、どう活かしていくのかは自分次第ですが、臨床で使用する医薬品の背景をより深く理解し、よりよい診療、ひいては患者さんの幸せにつなげたいです。さらに、大学院で学んだ論文の読み方やデータの解析方法等を後輩医師に教えることもできると思います」

大橋さんの軸足はあくまで臨床にあります。基礎研究の向こう側に患者さんの顔が見える、それが大学院での4年間を支えたのかもしれない。



未処置の神経細胞 (A) にアミロイドβを処置すると活性酸素種が発生し緑色の蛍光色素が増す (B)。クルクミンとフェルラ酸を組み合わせ処置することで活性酸素種の発生が抑制された (C)

※学年・役職は2023年3月現在



奥茂 敬恭さん
2019年3月 博士課程修了
昭和大学医学部生理学講座
生体制御学部門・講師

臨床に活かせる実学として、防己黄耆湯の研究を継続

本学医学部を卒業し、整形外科専門医をめざす中で、「老いも若きも皆それぞれの生き方で、自身の身体を壊さず痛めず、人生を謳歌してもらいたい」。そんな想いが湧出する反面、自らの力不足と整形外科領域における予防的治療拡充の必要性を強く感じました。

その後の大学院在学中に、外傷後の二次性変形性膝関節症に対する予防的治療として、漢方薬の一つである防己黄耆湯が本疾患の進行を抑制することを、疾患動物モデルを用いた実験により見つけることができました。現在は、防己黄耆湯の効果に関する詳しい検討を継続しつつ、臨床に活かせる実学として還元することを第一目標としています。在学中はこれまでの臨床経験に関する素朴な疑問や課題と真摯に向き合うことができ、同時に私自身の生き方や在り方に対する千思万考に繋がりました。

歯学研究科

博士課程歯学専攻

研究を志す諸君へ 人生には必ずチャンスが回ってくる

“歯科医師国家試験に合格し臨床研修を終えたら大学院に進学しようか、それとも歯科医師の仕事を始めようか” このように迷っている人が若い皆さんの中には数多くいると思います。私からアドバイスするとすれば、大学院に進学するにあたって必要なのは、科学と医療への「好奇心」や「貢献心」であって、「才能」とか「見栄」ではありません。

大学院歯学研究科では、基礎分野、臨床分野ともに「研究に向き合い続ける」ことが生活の中心となり、皆さんがこれまで経験したことの無い苦しみと楽しさを味わうことになります。そこでは、指導教員や先輩そして患者さんから多くのことを学び、自分自身と向き合うことで研究者としてだけでなく、高い見識と適応力を備えた教育者や歯科医師としても成長していきます。

このように、大学院歯学研究科に進学して自己研鑽することは、長い人生の中で数少ない「チャンス」の1つと言えます。このチャンスには様々なトラブルや挫折も伴いますが、その長いトンネルを抜けると、今よりもひと回り成長した自分があるのは確かです。

大学院歯学研究科の幅広い研究分野の中には、皆さんにとって興味や、やりがいを感じる研究テーマが必ずあるはずで、それがわからない時は、教員や大学院生など、誰でもいいので相談してください。自らの将来を見据え、高い志を持って生きて行こうとする皆さんの大学院進学を楽しみにしています。



Masamichi Takami
研究科長 高見 正道



研究の現場を訪ねて

動脈灌流標本ラットを使い 嚥下の仕組みを解き明かす

◆口腔機能リハビリテーション医学 / 口腔生理学
4年次
院生 石黒 光哲 さん

▶ 研究分野および指導教員 (2023年4月1日現在)

歯学教育学	坂井 信裕	顎顔面口腔外科学	代田 達夫
口腔解剖学	野中 直子	口腔腫瘍外科学	馬場 一美(代行)
口腔生理学	中村 史朗	歯科矯正学	中納 治久
口腔生化学	馬場 一美(代行)	歯科放射線医学	松田 幸子
口腔微生物学	桑田 啓貴	インプラント歯科学	宗像 源博
歯科薬理学	高見 正道	小児成育歯科学	船津 敬弘
歯科理工学	柴田 陽	口腔健康管理学	古屋 純一
口腔病理学	美島 健二	歯科麻酔科学	増田 陸雄
口腔衛生学	弘中 祥司	総合内科学	木庭 新治
美容歯科学	真鍋 厚史	医科歯科連携診療歯科学	マイヤース 三恵
歯内治療学	鈴木 規元	口腔機能リハビリテーション医学	馬場 一美(代行)
総合診療歯科学	長谷川篤司	障害者歯科学	船津 敬弘
歯周病学	山本 松男	顎関節症治療学	菅沼 岳史
歯科補綴学	馬場 一美		



石黒光哲さんは臨床で歯科医としての専門性を高められる分野で働きたいと考えたそうです。選んだ分野は口腔機能リハビリテーション医学。口腔機能というと、言語聴覚士の領域というイメージを持つ人も多いと思いますが、歯科医師も大きな役割を担っています。

「口腔のがんで、口の一部を切除した患者さんや、脳血管障害で口や舌の運動機能が低下した患者さんに対して、特殊な口腔内装置を作成することで患者さんの会話や飲み込みといった機能の回復を手助けします。歯科医師のみではなく、言語聴覚士とも連携をはかりながら、患者さん一人ひとりの全身、口腔状態を把握した上で摂食、嚥下、構音機能の回復をめざした治療を行うことは、とてもやりがいのある診療だと思います」

さらに、石黒さんは大学院で基礎研究も並行して行いたいと考えていたため、口腔機能リハビリテーション医学の伊原良明准教授をはじめとしたスタッフたちが、臨床も研究も積極的に取り

組んでいる環境にも惹かれました。伊原准教授は基礎研究の意義について次のように語ります。「嚥下障害を持つ患者さんのリハビリテーションを行うときに、基礎研究で培った論理的な思考をもって診療に臨めるのが基礎研究を経験した歯科医師の強みです。石黒さんの大学院進学は、臨床だけでなく後輩の指導にも活かされると期待しています」

自分で考える力が 臨床の現場でも活かせる

石黒さんは大学院では、基礎研究の教室の中で咀嚼や嚥下と脳の機能を研究している口腔生理学の井上富雄教授のもとを訪れました。「私の研究テーマは、摂食亢進作用を持つグレリンというホルモンが、嚥下機能を増強させることを証明することでした。データをとるために『動脈灌流標本ラット』という実験を行いました。新型コロナウイルス感染症の治療でECMOという人工心肺装置が使われましたが、それに近い動物実験です。これを使うと動物自体の呼吸・循環機能に左右されずに脳に酸素供給が行われるので、標本の状態を保ったままデータを採取できます」

動脈灌流標本ラットをつくる技術は、井上教授の研究室に所属する教員や大学院生が、何年もかけて完成度を高めていったものです。

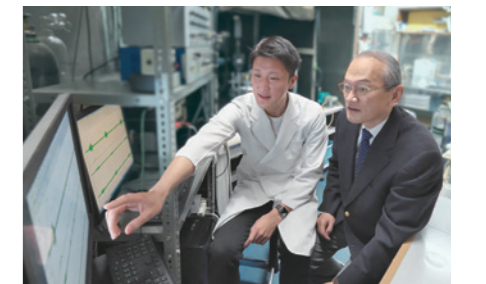
実験の結果、動脈灌流標本ラットにグレリンを投与することで、神経活動の振幅や持続時間

が増加することがわかりました。これは視床下部を除去または視床下部弓状核に存在するNPY/AgRPニューロンが分泌するNPYの受容体拮抗薬(ブロッカー)を投与することで効果が消失したことから、グレリンは視床下部を介することで嚥下活動を増強させていることがわかったからです。

石黒さんを指導した井上教授は、大学院で培った自ら考える力を患者さんの治療に活かしてほしいと願っています。

「実際の患者さんの治療にあたって、大学院は教科書に書かれていない症例について考える力を養う良いトレーニングになります。石黒さんには、ここで培った考える力を臨床で患者さんを治療するときに活かしてほしいですし、研究も少しずつでよいので継続してほしいと思っています」

将来は、認定専門の取得も考えている石黒さん。口腔機能リハビリテーション医学の教室でも、後輩から治療について相談を受けるなど、頼れる存在となっています。



指導教員 井上 富雄 教授 口腔生理学

※学年・役職は2023年3月現在



堅田 凌悟さん
2022年3月 博士課程修了
昭和大学歯学部口腔外科学講座
顎顔面口腔外科学部門・助教
昭和大学横浜市北部病院

唾液腺再生医療の開発をめざして

顎顔面口腔外科学部門における、顎変形症や口腔がんなどの歯科における外科的な分野に興味を持ち、臨床研修の修了後に大学院へ進学することを決めました。日々の臨床現場で、唾液腺の傷害を主とする自己免疫疾患であるシェーグレン症候群や口腔がんの放射線治療後の患者さんを診察し、対症療法ではない新規の治療法の必要性を感じました。そして大学院の研究では、口腔病理学講座 美島教授のもとで唾液腺の再生医療を目的とした研究に従事し、ダイレクトプログラミング技術を用いて液腺細胞の作出に成功しました。現在、横浜市北部病院で勤務していますが、日々多くの口腔乾燥に悩む患者さんを目にします。実際に再生医療として実用するには多くの研究が必要であるため、今後も患者さんのためにさらなる研鑽を積んでいきたいと考えています。



指導教員 伊原 良明 准教授 口腔機能リハビリテーション医学

薬学研究科

博士課程薬学専攻

私立最多の大学院生が在籍している薬学研究科で学ぶ 4学部が融合したチーム力を基盤とする多様な研究・教育

昭和大学大学院薬学研究科は、1969年（昭和44年）に修士課程の大学院として開設し、その後、薬学部の薬剤師養成課程6年制に対応して2011年（平成23年）より4年制の博士課程へと移行しました。半世紀以上にわたる長い歩みの中で高度な薬学研究と教育を実施してまいりました。特に昭和大学が誇る高いチーム力を活かし、基盤となる薬学領域から高い応用性が求められる臨床薬学領域まで、多岐にわたる研究分野で有能な人材を輩出してきました。

現在、薬学研究科では「問題点を自ら発掘」し、それを「解析・研究」して「解決策を見いだす」ことのできる人材育成をめざしています。その実現のため個々の大学院生に対応した様々なコース、カリキュラムが用意されています。これらの中には、医学、歯学、保健医療学の各研究科との共同研究や、附属病院での臨床研究、新薬開発研究など、昭和大学大学院でしか成し得ない多くの学びの機会が含まれています。さらに、大学院生のニーズに応えた種々の奨学金制度や早期修了制度。加えて、本学大学病院の臨床研修薬剤師制度と平行して大学院進学が可能な社会人受入制度などが充実しており、在籍者数90名を越える私立薬学系大学院では名実共に日本一の規模となっています。

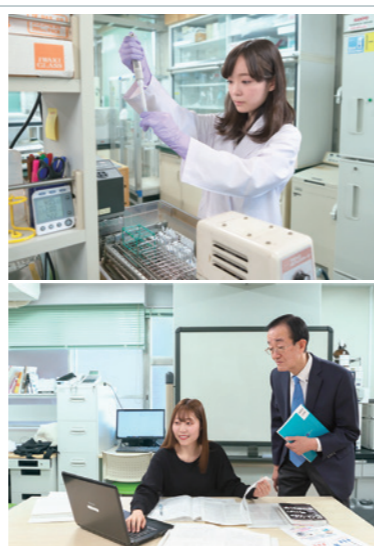
私たちは、薬学研究科修士が、それぞれの分野のプロフェッショナルとして医療や社会をより良い方向に導くリーダーとなることを期待し、可能な限りの指導とサポートを続けています。ぜひ薬学研究科で研鑽を積み、未来を創造する力を手にしてください。



Koji Nobe
研究科長 野部 浩司

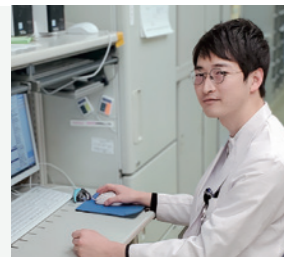
▶ 研究分野および指導教員（2023年4月1日現在）

薬学教育学	小林 靖奈	衛生薬学	原 俊太郎
医薬化学	福原 潔	薬剤疫学	今井志乃
生体分析化学	加藤 大	薬物治療学	向後 麻里
生物物理化学	合田 浩明	天然医薬治療学	川添 和義
生物化学	板部 洋之	感染制御薬学	石野 敬子
腫瘍細胞生物学	柴沼 質子	がんゲノム医療薬学	藤田 健一
毒物学	沼澤 聡	臨床栄養代謝学	千葉 正博
薬理学	野部 浩司	臨床研究開発学	肥田 典子
薬剤学	中村 明弘	臨床病態学	磯崎 健男
薬物動態学	佐藤 均	病院薬剤学	田中 克巳
社会薬学	岸本 桂子		



臨床から基礎へ、その後の臨床や研究につながる大学院の学修

動脈硬化の要因の一つに、酸化ストレスによって産生される活性酸素種が影響しているといわれています。大学院の毒物学部門では、活性酸素種の産生を抑えることで血管平滑筋細胞の過遊走を抑えるメカニズムを解明し、論文を執筆しました。臨床では疑問点の解決のために情報収集を行います。必要な情報が世の中で解決されていないことに遭遇する時もあります。臨床ではそのような時に臨床研究が始まることもあり、研究を開始するまでの流れや疑問点を解決するプロセスなど、博士課程での経験を活かし、データの収集、結果に対するの考察を踏まえた学会発表や論文執筆等に取り組んでいます。現在は大学院での研究に関連する循環器病棟を主に担当し、患者さんの安全な医療の実践と研究活動、学生や臨床研修薬剤師への教育活動に取り組んでいます。



石井 俊一さん
2021年3月 博士課程修了
昭和大学薬学部病院薬剤学講座・助教
昭和大学横浜市北部病院



研究の現場を訪ねて

細胞膜のリン脂質に着目して 病気や薬の副作用を防ぐ

◆ 衛生薬学
3年次

院生 富塚 祐希さん / 指導教員 原 俊太郎 教授

富塚祐希さんは大学4年生のときの研究室配属で研究に興味を持ち、卒業と同時に大学院に進学しました。研究テーマは「肺毒性を示す化学物質（パラコートやメトトレキサート）の毒性発現における長鎖アシルCoA合成酵素（ACSL）4の機能解析」です。

「ACSL4というのは、細胞膜のリン脂質に多価不飽和脂肪酸を取り込む際に重要な役割を果たしている酵素です。ACSL4を発現しない遺伝子欠損マウスをつくると、肺の細胞膜のリン脂質から多価不飽和脂肪酸が減少することがわかっています」

富塚さんは、肺に障害を起こす農薬のパラコートと、副作用として肺炎が問題になっている関節リウマチ治療薬のメトトレキサートを野生型のマウスと、ACSL4を発現しない遺伝子欠損マウスに投与して比較することにしました。講義を受けながら20時ごろまでは実験を行うという毎日。なんども失敗を経験しながら実験を繰り返した結果、ACSL4の遺伝子欠損マウスの方がパラコートを投与した場合に生存率が高く、メト

レキサートを投与した場合は肺の障害が軽度であることがわかりました。（左下の写真）

「この結果からは、細胞膜のリン脂質が化学物質による毒性発現に関わっていることがうかがえます。脂質の代謝は、さまざまな疾患の予防や治療、医薬品の副作用対策につながる可能性があります。昭和大学は高性能の研究機器が充実していて、脂質試料分析計は2台あり、網羅的に実験できるのが魅力です。これから細胞膜のリン脂質に着目した研究を続けていきたいですね」

多くの研究者との出会いと、 失敗も将来の成功につながる

富塚さんを指導した原俊太郎教授は、実験の結果が予想と異なると、別の視点から研究を深化できないかアドバイスをしました。「実験データをどのように解釈して表現するかで悩んでいたことがありました。しかし、実験の結果が予想と異なったとしても、別の角度から

見ると新しい発見があることがあります。経験を重ねるとそれが見えやすくなるのです。失敗が新しい研究の始まりになることもありますから」

原教授は研究の指導だけではなく、広く関心をもって多くのことを吸収してほしいと、富塚さんを学内外のさまざまな研究者に紹介してくれました。ほかにも、富塚さんは学内の共同

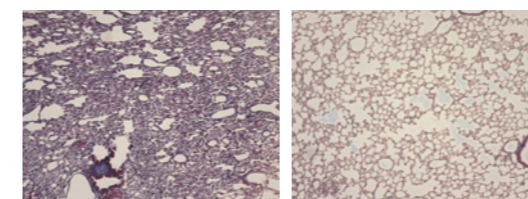
研究施設で出会った他分野の研究者からアドバイスをを受けたり、学会のポスター発表で高名な研究者と質疑応答をしたりと、大学院ならではの環境で交流を広げ、知見を広めていきました。

いま富塚さんは、「新たな細胞死」として注目されているフェロトーシスの制御因子としてのACSL4の関与についても研究しています。フェロトーシスは臨床的に腫瘍抑制作用のほか、全身の様々な疾患の発生および発症に重要な役割を果たしていると考えられています。

「将来は研究職について、基礎研究を通して薬学の分野に貢献したい」と将来の抱負を語る富塚さん。原教授も「ビッグジャーナルに論文を発表して業績を重ねたり、海外の研究施設に留学して知見を広めたり、活躍を大いに期待しています」と励まします。

細胞膜のリン脂質という分子レベルのミクロな現象が、さまざまな病気の治療や薬の副作用の対策につながるという基礎研究の醍醐味を楽しみながら、これからも富塚さんは研究を続けていくでしょう。

メトトレキサートをマウスに経口投与して21日目の肺



野生型のマウスは肺胞壁の肥厚が顕著にみられる

ACSL4を発現しない遺伝子欠損マウスは肥厚がおきていない



※学年・役職は2023年3月現在

保健医療学研究科

博士前期課程(修士)保健医療学専攻
博士後期課程保健医療学専攻

幅広く多彩な研究領域において、 保健医療学の専門職教育を担う研究・教育者を育成

保健医療分野の職種を越えた「知と技術の体系化」をめざすとともに、保健医療学の学問的体系に基づいた高度専門職者の教育を担える研究者・教育者の育成を行います。現代社会で生じる健康問題や、それらに関する多面的要因に関する研究を行い、最新の科学的知見を社会に向けて発信しています。

保健医療学において、幅広い専門職種が学びを深められるように多彩な科目を開講し、学びたいと思われる方々に広く門戸を開いています。社会人の大学院生のために、学ぶ方々の都合を考慮して開講していますので安心して学ぶことができます。

博士前期(修士)課程は、論文作成をする論文コースと高度実践者をめざす専門コースで構成されています。論文コースのリハビリテーション分野には言語聴覚機能学と視覚機能学が新たに加わり、さらに幅広い研究に取り組むことができるようになりました。また、専門コースでは、CNS(高度実践看護師)、医学物理士、認定遺伝カウンセラーという実践の場におけるリーダーの育成を行っています。多彩な研究領域に触れながら自らの専門性を極めることができます。

博士後期(博士)課程は、4つの専門教育研究分野で構成されており、保健医療学分野の学術の理論構築および応用の開発に取り組み、高度な専門職業人として、これからのチーム医療を創造する研究・教育者の育成を行います。



Nadami Mimura
研究科長 三村 洋美

▶ 研究分野および指導教員 (2023年4月1日現在)

博士前期課程	分野	領域	指導教員
論文コース	医系基礎・専門・教育	形態解析学	伊藤 純治
		病態生理学	下平 和久
		統合医療学	田中 晶子
		医療マネジメント学	上條 由美
		医療人教育学	榎田めぐみ
	看護	臨床栄養学	安部 聡子
		臨床看護ケア開発学	三村 洋美
		コミュニケーション開発学	富田真佐子
		看護マネジメント学	大崎千恵子
		看護学	三村 洋美
リハビリテーション	生体機能学	田代 尚範	
	運動機能学	加賀谷善教	
	中枢神経機能学	中村 大介	
	精神機能学	鈴木 久義	
	言語聴覚機能学	小林 一女	
	視覚機能学	岩渕 成祐	
	医療技術	臨床検査学	安原 努
診療放射線学	加藤 京一		
臨床工学	伊藤 純治		
口腔保健学	弘中 祥司		

博士前期課程	分野	領域	指導教員
専門コース	専門看護師(CNS)	老年看護学	三村 洋美
		精神保健看護学	榎田めぐみ
		がん看護学	渡邊 知映
		遺伝カウンセリング学	渡邊 知映
医学物理教育	医学物理学	加賀美芳和	

博士後期課程	分野	指導教員
論文コース	医系基礎・専門・教育	伊藤 純治
	看護	三村 洋美
	リハビリテーション	加賀谷善教
	医療技術	加藤 京一



研究の現場を訪ねて

研究的視点を持つ 看護師を育成したい

◆看護マネジメント学
前期課程 2年次

院生

南部 恭子 さん

指導教員

松木 恵里 准教授

南部恭子さんは、昭和大学藤が丘病院で看護師長として働きながら、大学院で研究に取り組んでいます。

「職場の看護師の研究的視点を育成するために、外部の研修に参加したり、統計学などを独学で学修しましたが、理解に難渋しました。看護部長と面談をしたときに『大学院に行けば理解を深めることができる』と勧めいただき、進学を決めました。昭和大学の大学院は勤務がない日時に授業が開講されるなど仕事と両立しやすく、同じ職場に臨床教員も多くいて相談しやすいのが魅力です。講義では理学療法士や作業療法士、臨床検査技師など多職種の院生から、看護師とは別の視点からの意見が聴けるのが新鮮でした」

南部さんが修士課程で研究しているテーマは「行動抑制を開始する看護師の判断」です。高齢化社会となり、入院する患者さんの安全を確保するために、入院時から身体抑制するケースが

増えています。倫理的判断よりも患者さんの安全性を優先し、予防的に抑制が多用されることが疑われています。

「データを見ると、『入院前に自宅で転倒歴があった』『せん妄を起こした』とか、過去の様子にまどわされているように感じました。入院した時点ではどうだったのか、カンファレンスでアセスメントしていないことに疑問を感じました。そこで、どのような思考プロセスを経て抑制にいたったのか、現場の看護師の声を集めて検証することにしたのです」

指導教員と二人三脚で 研究の真髄に近づく

南部さんは、病院内の5つの部署で抑制について無記名のアンケート調査を行い、回答の文章を分析して改善策を探ることにしました。抑制に至るまでの思考プロセスを詳しく知るため、看護師へのインタビューも計画しています。

「アンケートに書かれた文章を細かく分解し、類似点がある言葉をグループ化して、体系的に整理・分析する手法を学んでいます。インタビュー調査では、質問を通して取材対象者からより多くのデータが得られるようなスキルも身につけたいと思います」

指導教員の松木恵里准教授は、

南部さんが大学院に進学したときに何を研究したいのか質問して、思考の整理ができるように、ディスカッションを重ねたといいます。

「南部さんはもともと、『認知症』の患者さんの看護に興味を持っていました。ただ、認知症といっても幅広く、もっと範囲を絞る必要がありました。『あなたが疑問を持って、それを解き明かしたいと思っていることは何?』と問いかけて、研究対象を絞っていったのです。毎週、ときには毎日のように議論して、研究のグランドデザインを図に描いていく中で、『抑制』というテーマが抽出されました」

指導教員とやりたいことを確認しあい、軸をつくっていく過程を南部さんは「研究の真髄に近づくようだった」といいます。看護にまつわることを幅広く勉強するのが好きで、興味の対象が広がりすぎることもあったそうです。そんなとき松木准教授とのディスカッションが軸のぶれない研究を続けることにつながりました。考えがまとまらないときは立ち止まり、考えすぎるときは少し時間を置いてリセットする。それを繰り返すことで、南部さんは「研究的視点とは何か」について同時に学んでいます。



看護師へのインタビュー調査



※学年・役職は2023年3月現在



弓川 大地さん
2021年9月 博士後期課程修了
医療法人五会新横浜リハビリテーション病院
リハビリテーション科・理学療法士(主任)

回復期リハビリテーションの臨床における尺度開発

私は理学療法士として、主に回復期リハビリテーション病棟で従事しています。現行の制度内で回復期リハビリテーション病棟での関わりが、患者さんの実際の生活にどのように繋がっているか気になり大学院に入学しました。大学院ではリハビリテーション領域を専攻し、臨床の中で何気なく行っていることを目に見える形で示せるように、尺度開発に取り組みました。目に見える形にすることで臨床では何をすれば良いかが明確になると感じます。この研究はまだ途中ですが、今後日本特有の制度である回復期リハビリテーションの発展に寄与できるものと考えます。大学院では先生方や他の大学院生と互いの研究をプレゼンし、周囲のサポートを受け多角的な視点で研究を進めることができました。世界に向けた研究を、昭和大学大学院から発信していきましょう。

保健医療学研究科

【博士前期課程】

論文コース

医系基礎・専門・教育分野

形態解析学

当領域では「ヒトおよび動物の正常構造と機能」を基にマクロからミクロのレベル、さらに遺伝子レベルまで幅広い範囲で基礎的研究を行います。対象領域として肉眼解剖学、比較解剖学、組織・細胞学、生理学、生化学などが含まれます。ヒトを対象としてリハビリテーション領域の臨床につながる研究も行うことができます。また、マウスやラットなどを用いた動物実験による研究も行うことができます。職種や有する資格(免許など)は問いません。

医療マネジメント学

少子高齢化、医療の複雑化、医療費増大など医療における課題はたくさんあります。安定的な病院運営のためには、データに基づく解析と多職種を活かす組織運営が必要です。当領域では、医療現場において、質の高い医療サービスを効率的に提供するために必要なマネジメント能力を発揮できる人物の養成を目指しています。医療の質改善、地域連携、病院経営、運営管理、災害時の対応など様々な分野における専門的な研究を行っています。

病態生理学

当領域では人体の正常機能が破綻することによって引き起こされる疾患や症状の機序などの解明、さらにその予防や回復に関する研究を行います。対象分野は運動器、呼吸器、消化器、循環器、生殖器、神経系、代謝・体液系、内分泌系など広範囲にわたります。研究内容は医学、リハビリテーション学、看護学が基本となり、研究遂行には様々な先進的な研究手法を用います。ヒトを対象とするだけでなく動物実験による研究も行います。

医療人教育学

臨床の場において高度な実践力を発揮しつつ教育者としての立ち位置を持つ教員と、研究力も兼ね備え教育の場で活躍する大学教員の育成を目指します。医療専門職としての資質や能力をいかに育むか、学修成果をどのように測定するか等を探究し、大学教育や現任教育に活かせるようにしています。学修方略や学修成果に関する研究、教員に求められる能力の抽出等、研究テーマは様々です。

統合医療学

当領域では、保健医療学全般にわたる幅広い分野の研究を行っています。とくに地域医療の取り組み、地域との連携など、これからの医療の在り方を多角的な視点から捉え、医療・社会・生活者を見つめ研究に繋げています。その根底の視点として、人間を社会や自然環境との調和の中で生きている全体的(ホリスティック)な存在として捉え、また人間には自然治癒力が備わっているという視点を大切に研究を行っています。

臨床栄養学

栄養学は、人々の健康に深く関与していることから、予防から疾病の治療食まで幅広い分野があります。当領域では、臨床栄養学に加えて、看護やリハビリテーション分野における栄養学領域を広く範囲に取り扱います。研究内容は、臨床における治療食の効果検証の他、看護師が患者のために実施する栄養ケアや食生活のサポート、リハビリテーション栄養やスポーツ栄養等、運動実践に必要な栄養補給方法の研究も行っています。

論文コース

看護分野

臨床看護ケア開発学

臨床における看護ケアに関する研究を行います。看護技術や看護ケア評価をはじめ患者教育、臨床看護師のスキルアップ教育と幅広いテーマの研究を行います。臨床看護の実践を科学的に説明することを目指しています。看護師、助産師をはじめ看護のライセンスを持つ方、介護の専門職者の方や福祉系の方も研究ができます。

コミュニティケア開発学

地域で暮らす人々の生活の質を高める取り組みとして、あらゆる健康レベルや発達段階にある人々への看護に焦点を当てた研究、地域で支える保健・医療・福祉のケアシステム開発の研究を行っています。人々が住み慣れた地域で自分らしく生活することを実現するために、地域での健康づくりや介護予防、子育て支援、訪問看護、病院から地域への継続看護など幅広い領域での個別ケアや集団・地域へのケアシステムの開発を目指しています。

看護マネジメント学

すべての看護職は看護業務を管理しているといわれるように、看護管理は管理者だけが行うわけではありません。当領域では、看護の目的である質の高いサービスの提供を実現するために、看護マネジメントの視点から必要な要素を探索します。具体的には、人材育成や業務管理、医療の質保証、目標管理、組織内コミュニケーションなどのテーマをとおして、臨床での疑問や課題を解決に導くことができる能力を育成します。

論文コース

リハビリテーション分野

生体機能学

呼吸、循環、消化、腎尿路など身体内部の様々な臓器障害に対するリハビリテーションについて研究を行い、最新の知見や技術を発信していきます。集中治療室で行う高度急性期医療から回復期・在宅医療に至るまで、リハビリテーションを通して得られる効果を検証します。加えて、当領域における自己の専門性を活かし、全人的医療を実践する人材を育成します。

運動機能学

運動機能とはヒトが身体を動かす機能と定義され、本来は脳・脊髄・筋などの組織に働きかけ運動を起こす能力とされています。当領域では、特に筋や関節といった運動器の機能について、成長期から高齢者といった幅広い年齢層に対し研究を行います。健康人を対象にしたバイオメカニカルな研究を予防や臨床に応用するだけでなく、臨床研究を推進して運動障害に悩む対象者のリハビリテーションの開発研究を行う分野です。

中枢神経機能学

脳卒中などの脳損傷によって、感覚機能・運動機能・認知機能(高次脳機能)・精神機能などADL能力の向上を妨げる大きな要因となります。主に中枢神経系が関わる諸機能についてリハビリテーションの対象となる障害を全人的に捉え、認知機能障害や身体機能障害の症状特性に関して学修します。健康で質の高い生活を営む妨げとなる病態、症状の機能回復のメカニズム、より適切な評価方法や介入方法についての検討を行います。

視覚機能学

眼球運動、視空間認知、視覚情報という視覚機能を基本として視覚に関連した研究を行う領域となります。視覚機能士の方、視覚検査やリハビリテーションに興味がある方の研究を支援します。

精神機能学

精神機能学では主として、精神保健上の問題を抱える対象者・家族、精神保健医療福祉従事者自身を対象として研究を進めることになります。また、精神保健医療福祉従事者に対する教育に関する研究も同等に重要です。臨床現場における種々の問題の解決につながる研究を展開するために必要な基礎的学力を得ることを目的としています。所属院生は作業療法士、保健師、看護師、理学療法士、社会福祉士および精神保健福祉士等を想定しています。

言語聴覚機能学

臨床でのリハビリテーションを通して特に言語や嚥下機能の研究を行う領域となります。言語聴覚士をはじめリハビリテーションのライセンスを持つ方の研究を支援します。

各分野・領域のご紹介

【博士前期課程】

論文コース

医療技術分野

臨床検査学

臨床検査は医療を行う上で欠かせない領域の一つです。診療、看護、他の検査、治療を実施する上でも患者の状態を客観的に判断できる方法です。基礎教育でも多くの検査や疾患を学んでいますが、検査結果を深く正しく読み込むためには検査の原理を正しく理解する必要があります。また、新規の検査も出現し新たな知見も発見されています。臨床検査学は検査の意味を理解し判断するための知識を学び、研究する領域です。

診療放射線学

放射線に関する撮影技術、検査技術、放射線治療技術、放射線測定技術、放射線管理技術などについて研究を行っています。また、チーム医療やスタッフ教育に関する教育、研究、医療人として、また組織人の育成も行っています。診療放射線学技術の最新知見、医療従事者の教育指導法を学修、研究することによって、放射線診断領域や医療現場でリーダーシップを発揮する能力を持つ診療放射線技師ならびに医療従事者を育成します。

臨床工学

臨床工学領域の基礎学力および人工呼吸・体外循環・血液透析などの各分野における専門知識を幅広く学修するとともに、最新の医療機器についての理解を深めることによって専門知識と広い学識をを行いながら口腔機能の維持・向上に向けた力を発揮できる人材の育成に取り組めます。口腔保健の専門的立場から幅広い他の領域や分野とも連携を図り、国民の健康寿命延伸に寄与するための基盤をつくることを目的としています。

口腔保健学

口腔保健学では口腔から全身の健康を支援し、生活の質を高める取り組みや効果的な口腔健康管理システムの開発・研究を行っています。妊娠期からのすべてのライフステージにおいて口腔健康管理を行いながら口腔機能の維持・向上に向けた力を発揮できる人材の育成に取り組めます。口腔保健の専門的立場から幅広い他の領域や分野とも連携を図り、国民の健康寿命延伸に寄与するための基盤をつくることを目的としています。

論文コース

専門看護師(CNS)分野

老年看護学

高度実践看護師課程(38単位)として、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供できる高度な看護実践能力を育成します。急性期病院から在宅という幅広い視野で、老年者の健康の回復や増進を支える卓越した看護実践能力を身につけます。老年看護に興味があり、高度な実践能力を身につけたいと考えている看護師(実務経験5年そのうち3年は専門分野で実践が必要です)。

精神保健看護学

精神保健上の問題を抱え、地域で治療やリハビリテーションを受けている対象や療養中の対象への高度なケアを提供できる、また社会の人々の精神的な健康を守ることで社会に貢献できる精神看護専門看護師の育成を目指します。精神科救急医療はもとより、地域における多様な精神保健看護分野への要請に対応できる、そして精神看護専門看護師の役割や機能、社会的な価値について実績を示して説明できるような専門看護師を養成します。

がん看護学

本学の強みである最先端のがん医療とそれを支えるチーム医療を講義・実践・研究を通して学びます。ケアとケアを統合してがんを持つ人を全人的に支え、がん患者とその家族のQOLを高めるためのエビデンスに基づいた卓越したがん看護実践能力を身につけます。高度実践看護師課程(38単位)として認定をうけ、がん看護専門看護師の育成を目的とします。

論文コース

遺伝カウンセリング分野

遺伝カウンセリング学

認定遺伝カウンセラーは、最新の遺伝医学の知識を持ち、遺伝医療を必要としている患者や家族に、適切な遺伝情報や社会の支援体制等のさまざまな情報提供を行い、心理的・社会的サポートを通して、当事者の自律的な意思決定を支援する保健医療専門職です。本コースは、認定遺伝カウンセラー制度による遺伝カウンセラー教育課程として認定されており、単位取得することで認定試験の受験資格を得ることができます。

論文コース

医学物理教育分野

医学物理学

医学物理学とは、物理学の知識・成果を医学・医療に応用・活用することを目的とする学問です。本分野は、放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先導的役割を担う者として、放射線を用いた医療が適切に実施されるように、医学物理の専門家である医学物理士の育成を目指しています。対象は、理工学系・放射線技術系学士の学位を有している方です。本邦では医学物理士の数が圧倒的に不足しており、今後ますます発展が期待される領域です。

【博士後期課程】

論文コース

医系基礎・専門・教育分野

前期課程の「医系基礎・専門・教育領域」の各領域で行われた研究内容をさらに発展させ、新知見を探索、発見する研究を行います。基礎・臨床に関わる実験・観察系の研究だけでなく、マネジメントや教育に関する応用研究も含まれ、多種多様な研究方法を用います。ヒトを対象とする研究だけでなく、動物実験による研究も行っています。得られた研究成果は広く全世界に発信します。職種や有する資格(免許など)は問いません。

看護分野

保健医療学の中の看護学の学問体系において研究を行います。社会の要請に応えるべく高度な看護実践や看護管理の科学的根拠となる研究を行います。博士前期課程の看護分野とつながりを持ち、さらに高度で独創的な研究へと進めます。学問の発展に寄与する研究成果は世界に発信します。保健医療学のリーダーとなる教育者、研究者を輩出します。看護師、保健師、助産師、看護学に興味のある方(博士前期課程(修士課程)を修了している必要があります)。

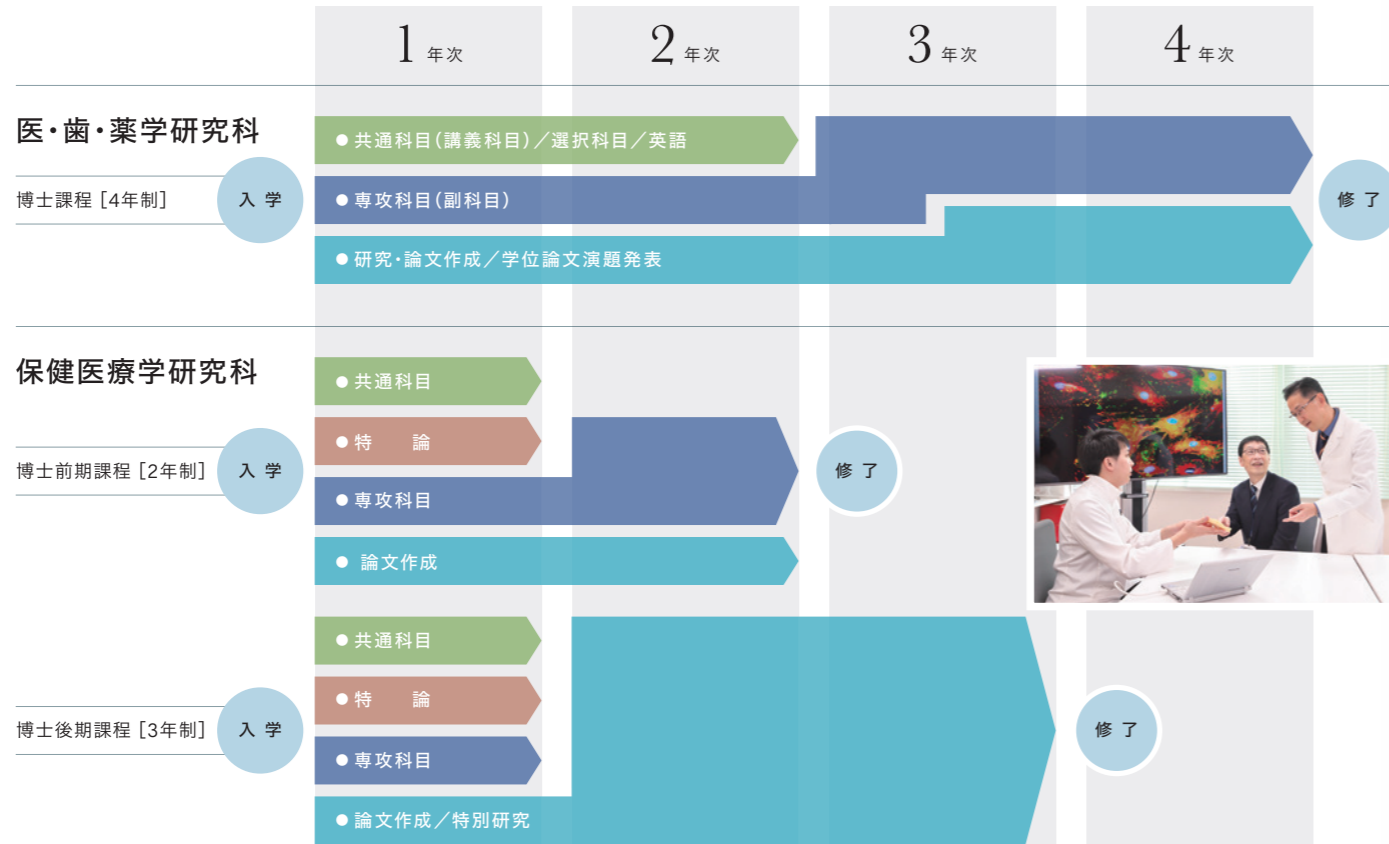
リハビリテーション分野

リハビリテーション分野は、中枢神経障害や呼吸器・循環器・代謝系障害、運動器障害や精神保健上の問題など多岐に渡ります。博士後期課程では、博士前期課程におけるこれらの部門で培われた知識を基に、より先進的な研究に取り組み基礎研究だけでなく臨床研究を活性化していきます。さらに、研究責任者として研究の企画・実践ができるだけでなく、後進の指導や論文の査読ができる段階に到達できるような能力を養います。

医療技術分野

医療技術領域は、臨床検査学、診療放射線学、臨床工学、口腔保健学の各領域における基礎知識、専門知識を学修するとともに、最新の知見や理解を深め、幅広い学識を修得し、医療現場でのリーダーならびに教育者を育成します。また、各領域の専門家として、医療安全も含めた医療職場での中心的人材を育成し、さらに、研究責任者として研究の企画・実践ができ、加えて後進の指導や論文の査読ができる人材を育成します。

カリキュラム



共通科目
大学院での研究を開始するにあたり、研究の進め方、科学論文の読み方、実践の基礎および実験結果の統計的処理方法など、研究者に共通の知識・技術について学びます。全研究科の在籍者が受講できます。

- ◎ 生体の組織構造解析法
- ◎ 分子生命科学的解析法
- ◎ 生体の病理病態学的解析法
- ◎ 医学生物における統計学的解析法
- ◎ 生体の機能解析法
- ◎ 研究倫理・教育・AI
- ◎ 生体内の物質分析法

専攻科目 (副科目)
共通科目で基礎教養を修得したのち、専攻科目で専門分野について深く学びます。実習・演習を主とし、論文抄読等も含め、指導教員による少人数制指導が行われます。

学位論文演題発表
学位論文は、研究科主催の発表会または学内学会である昭和大学学士会で全員が演題発表を行います。



共同研究施設

昭和大学では各学部・研究科等に共通する研究の充実のために、5つの共同研究施設があります。

- 1 遺伝子組換え実験室**
動物実験による遺伝子組換え実験室。微生物や動物細胞を用いた遺伝子組換えを行う実験や遺伝子組換え動物の飼育・繁殖、実験を行う施設の管理と運営を行っています。本学研究者が登録をして利用できます。
- 2 電子顕微鏡室**
透過電子顕微鏡、走査電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡などを用いた、超微細構造形態や3次元解析などの研究・教育を行うバイオイメージングの共同施設です。本学教職員、大学院生、研究生等は指定の講習を受けることにより利用できます。
- 3 分子分析センター**
質量分析、核磁気共鳴装置など、共用性の高い機器分析装置を維持管理する共同施設です。装置操作の技術指導や、装置メーカー担当者等を招いたセミナー講習会を教員・学生へ随時行っています。本学学部学生や大学院生、教員、学外共同研究者が利用できます。依頼測定にも応じています。
- 4 動物実験施設**
実験動物を適正に飼養・保管し、動物実験等を適正かつ安全に遂行するための施設です。
- 臨床医学共同研究室**
主に医学部の臨床系講座が利用している研究室です。デジタルPCRシステム、マルチプレックスアッセイシステム、DNAシーケンサー、リアルタイムPCR解析システム、フローサイトメトリーシステムなどの様々な研究機器のほか、組織染色実験や細胞培養実験などの設備を設置しており、機器の使用説明会やセミナーなども行っています。



4大学院連携がんチーム医療

各大学の特色あるがん医療を学び、さまざまな場面で貢献できる人材を養成

がん治療は、多職種が連携して患者さんを支えるチーム医療の代表的な分野です。大学病院での先端医療から在宅での緩和医療まで、その範囲も広く、チーム医療の組み合わせや目的も多岐にわたります。こうした背景から、さまざまな場面で貢献できる力を養うため、2014年度から東京慈恵会医科大学、星薬科大学、上智大学と連携し、4大学院共通科目「がんチーム医療」を開講しています。各大学の特色あるがん医療の授業を受講するとともに、多職種の大学院生がグループで最適な治療やケアを討議・提案する、ワークショップを開催しています。



昭和大学統括研究推進センター

SURAC

大学院在学中も卒業後も、研究に関する様々な支援が受けられます。

昭和大学統括研究推進センター(SURAC)では、大学院生を含めた研究者向けの教育や研究相談、研究倫理審査、競争的資金の獲得、各種研究費の執行管理や知的財産・発明申請など研究に関する支援を行い、研究者が臨床業務を行いながら研究を両立できる体制づくりを推進しています。臨床研究に関わる倫理審査の手続き、論文作成、統計解

析など、研究に関する様々なご相談を受け付けています。お気軽にお問合せください。また、学内関係者が閲覧可能な研究に関する教育コンテンツも公開していますので、これから研究活動をはじめの大学院生にぜひご活用いただければと思います。



センター長 三邊 武彦

RESEARCH INSTITUTE

最先端の研究を支える研究所

本学の7つの研究所では、医系総合大学としての特色を生かし、4学部および附属病院の臨床と連携した学際的研究を推進しています。その成果は、新たな治療法の確立や新薬開発への礎となり、医学の発展に大きく貢献しています。



Research Institute Clinical Research Institute for Clinical Pharmacology & Therapeutics

臨床薬理研究所

所長 小林 真一

2011年に昭和大学附属烏山病院内に設立された研究専用ベット44床を有する研究施設で、第I相 (FIH) 試験などの早期探索的試験や臨床薬理試験を実施しています。

2020年4月に臨床免疫腫瘍学部門、翌年4月に臨床腫瘍診断学部門が開設され、がん免疫療法に係る先端的な研究が、さらに9月に薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門が設置され他大学にない薬学的発想の臨床研究もできることとなりました。

臨床薬理研究所は昭和大学の附属病院、各学部の講座等と協同して医療に貢献できるエビデンス創出をめざしています。



Research Institute Advanced Cancer Translational Research Institute

先端がん治療研究所

所長 鶴谷 純司

先端がん治療研究所は、基礎研究や臨床研究を通じてがんの診断・治療・予防技術の開発を推進します。細胞株や動物モデルを用いた基礎研究の経験や、また血液や腫瘍検体を用いたトランスレーショナルリサーチのための基礎知識を学びます。さらに、2022年3月には昭和大学病院内に先端がん治療研究臨床センターが設置され、治験、特定臨床研究、医学研究を経験することが可能です。基礎と臨床を融合したがんのトランスレーショナルリサーチのトレーニングを通して、研究の責任医師をめざしてみませんか。



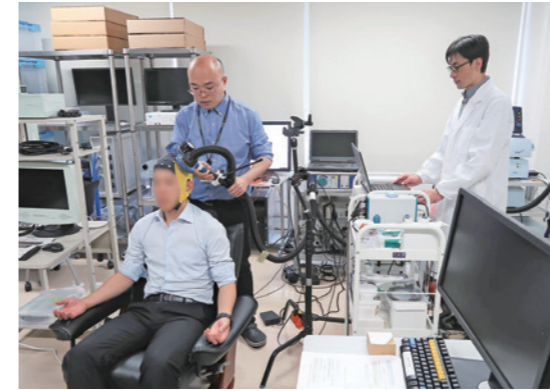
Research Institute Research Institute for Sport and Exercise Sciences

スポーツ運動科学研究所

所長 三邊 武幸

スポーツ健康科学分野の発展に寄与すべく、2015年4月に昭和大学藤が丘リハビリテーション病院内に設立されました。トップアスリートから運動愛好家までの運動器・内科・歯科・栄養に関する障害予防や疾病治療などを大きなテーマにしています。そして、リハビリ病院を中心に他の附属病院・各学部と連携し、それぞれの診療科・学部研究室のテーマを横断的に融合させた学際的な研究を行っています。

また、学生教育や地域健康増進活動にも取り組んでいき、スポーツ医科学・健康科学を通して(人間の可能性を探求する)研究所をめざしています。



Research Institute Medical Institute of Developmental Disabilities Research

発達障害医療研究所

所長 太田 晴久

2013年に昭和大学附属烏山病院内に開設した成人発達障害専門外来を持つ研究所です。臨床集積は国内最大級であり、成人の自閉症スペクトラムと注意欠如多動性障害を主な対象として、質問紙調査からデイケアプログラムの開発、最新の脳科学研究に至るまで、発達障害に関する幅広い臨床研究を実施しています。脳科学(神経科学)の分野では、最新の3テスラMRI装置を導入して、発達障害の脳画像研究を推進しています。MRI以外にも、脳波計や経頭蓋磁気刺激(TMS)装置など、脳科学の最新の知見と技術を駆使した研究に取り組んでいます。



Research Institute Institute for Clinical Genetics and Genomics

臨床ゲノム研究所

所長 中村 清吾

臨床ゲノム研究所は2022年4月に開設され、主に腫瘍組織もしくは血液から、ドライバー遺伝子と、それをターゲットとした新薬の治験への道筋をつくるというがんゲノム医療の、昭和大学としての推進を旗頭にスタートしました。その他に、乳がんや大腸がんを始めとする遺伝性腫瘍の原因遺伝子を、AI問診システム(チャットボット)を介して健診受診者の中から見出すというユニークな臨床研究にも着手しました。今後は、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病のゲノムワイド関連解析も視野に入れています。領域を問わず、ゲノムを用いた臨床研究に興味のある方の参画を歓迎します。

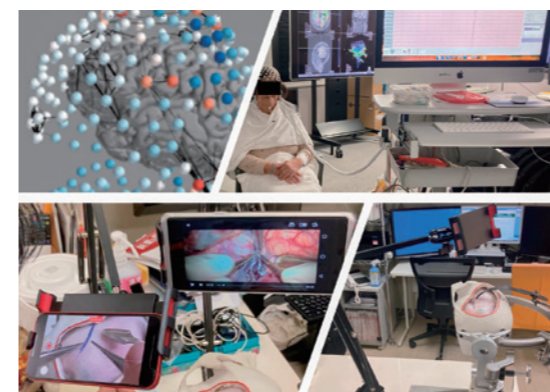


Research Institute The Mt. Fuji Institute For Nature and Biology

富士山麓自然・生物研究所

所長 平井 康昭

富士山麓自然・生物研究所は、富士山麓の自然環境と生態系の保全に寄与することを目的として2022年5月に開所しました。標高3776mの活火山である富士山の裾野には、富士五湖を含む水域や、国立公園から伐採地といった人為的な影響が大きい陸域まで存在します。2013年に世界文化遺産に登録され、山麓地域を包含した保全の取り組みがより一層求められています。今後は自然環境と生態系の調査・研究に加えて学生への教育普及活動にも取り組み、さらに地方自治体が行う自然環境調査や地史編纂に協同して、富士山麓の保全に貢献しようと考えています。



Research Institute Brain Function Analysis & Digital Medicine Research Institute

脳機能解析・デジタル医学研究所

所長 佐藤 洋輔

2018年に昭和大学は日本てんかん学会研修施設に認定され、安全確実なてんかん診療の実践と、特殊脳波解析技術を活用した脳機能研究に精力的に取り組んでいます。また近年は、生体シグナルや医用映像などの様々な情報がデジタル化され、適切なソフトウェアやAI技術を活用することで、新たな知見や発明がもたらされる可能性が高まっています。脳機能解析・デジタル医学研究所は、革新的かつ臨床直結型の脳機能解析研究および技術開発と、医学・医療における先進的なDx化を目的として、2023年4月に設置されました。

大学院データ

在学生数

(2023年4月1日現在)

研究科名称		入学定員	収容定員	募集定員	在学生数
大学院	医学研究科	60	240	60	292
	歯学研究科	22	88	22	113
	薬学研究科	15	60	15	99
	保健医療学研究科(博士前期課程)	20	40	20	39
	保健医療学研究科(博士後期課程)	6	18	6	28
合計		123	446	123	571

入学試験結果

(2023年4月1日現在)

区分		志願者			入学者数			入学者の出身大学等			
		男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外	
医学研究科	2022年度 秋季	一般	4	1	5	4	1	5	2	3	0
		社会人	2	3	5	2	3	5	3	2	0
		合計	6	4	10	6	4	10	5	5	0
	2023年度 春季	I期一般	0	1	1	0	1	1	1	0	0
		I期社会人	6	5	11	6	5	11	11	0	0
		II期一般	5	3	8	4	3	7	2	5	0
II期社会人	22	4	26	21	4	25	20	5	0		
合計	33	13	46	31	13	44	34	10	0		
歯学研究科	2022年度 秋季	一般	0	1	1	0	1	1	0	1	0
		社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		合計	0	1	1	0	1	1	0	1	0
	2023年度 春季	I期一般	3	3	6	2	3	5	3	2	0
		I期社会人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II期一般	10	11	21	10	10	20	16	4	0
II期社会人	0	3	3	0	3	3	3	0	0		
合計	13	17	30	12	16	28	22	6	0		
薬学研究科	2022年度 秋季	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	0	2	2	0	2	2	1	1	0
		合計	0	2	2	0	2	2	1	1	0
	2023年度 春季	I期一般	3	2	5	3	2	5	5	0	0
		I期社会人	4	8	12	4	6	10	7	3	0
		II期一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II期社会人	3	4	7	3	4	7	6	1	0		
合計	10	14	24	10	12	22	18	4	0		

区分		志願者			入学者数			入学者の出身大学等			
		男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外	
保健医療学研究科	2022年度 秋季	博士前期(修士)課程※	一般	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	5	2	7	2	1	3	2	0	1
		合計	5	2	7	2	1	3	2	0	1
	博士後期課程	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	1	1	2	1	1	2	2	0	0
		合計	1	1	2	1	1	2	2	0	0
合計	6	3	9	3	2	5	4	0	1		
2023年度 春季	博士前期(修士)課程※	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	11	3	14	9	2	11	4	3	4
		合計	11	3	14	9	2	11	4	3	4
	博士後期課程	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	3	0	3	2	0	2	0	2	0
		合計	3	0	3	2	0	2	0	2	0
合計	14	3	17	11	2	13	4	5	4		

※コースを含む

■2022年度秋季合計[4研究科]

区分	志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
	男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
合計	12	10	22	9	9	18	10	7	1

■2023年度春季合計[4研究科]

区分	志願者			入学者数			入学者の出身大学等		
	男	女	計	男	女	計	本学から進学	他大学から進学	それ以外
合計	70	47	117	64	43	107	78	25	4

学位授与数

(甲号)

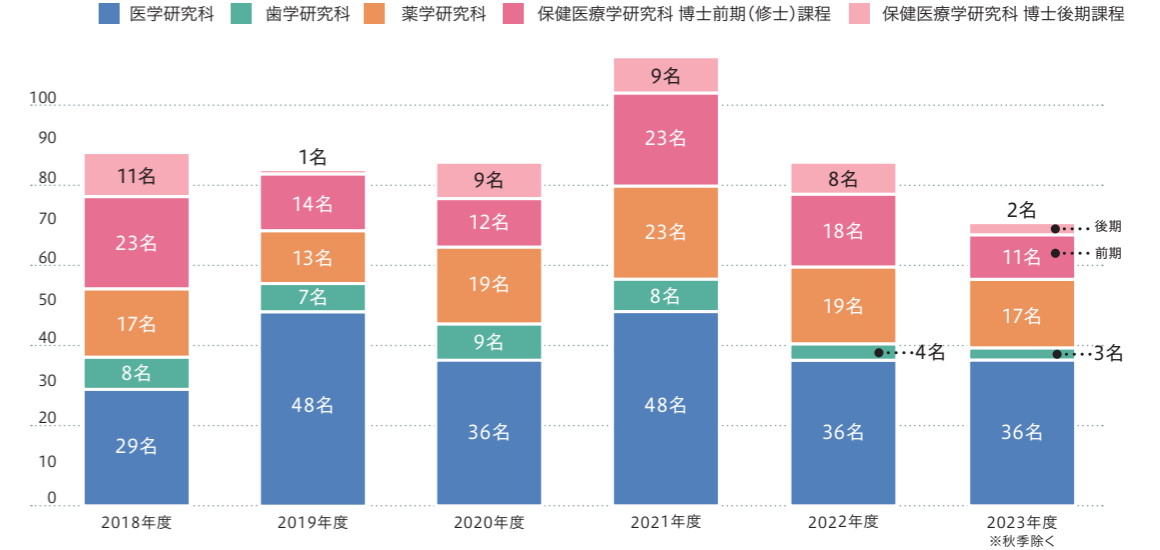
(2023年3月31日現在)

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
医学研究科(博士)	54	51	58	45	53	43	40
歯学研究科(博士)	25	25	27	21	22	19	22
薬学研究科(博士)	3	6	10	15	13	17	13
保健医療学研究科(博士前期課程)	20	17	16	20	20	17	16
保健医療学研究科(博士後期課程)	5	2	3	1	5	5	5

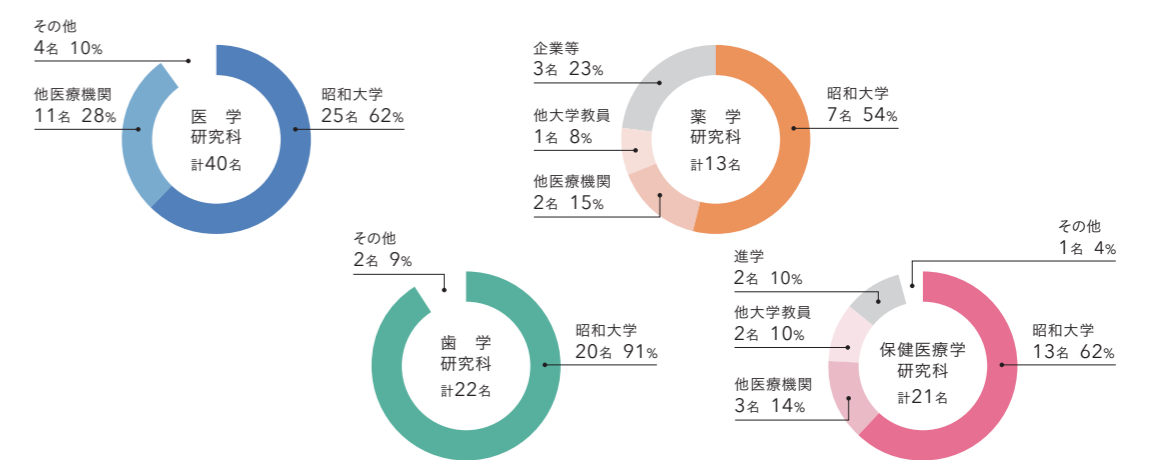
※保健医療学研究科(博士前期課程)には、CNS修了者を含む

社会人の受入実績

(2023年4月1日現在)



2022年度 修了者進路状況



早期修了制度

下記の年数以上在籍していれば、優秀な業績をあげた学生に限り、特例により在学期間の短縮が認められています。

- ◎ 博士課程 3年
- ◎ 博士前期課程 1年
- ◎ 博士後期課程 修士課程もしくは博士前期課程に2年以上在籍し、当該課程を修了した者 1年
- ◎ 修士課程に1年以上在籍し、当該課程を修了した者 修士課程における在籍期間を含めて3年

表彰制度

【上條賞】

在学中に特に優れた業績をあげた学生に対して、上條賞が授与されます。

大学院生海外渡航 奨学金制度

昭和大学では大学院各研究科の在学生が海外に渡航し学会発表等を行う場合に、申請により奨学金を支給する制度をもっています。在学中1回で、10万円を限度とします。なお、この奨学金の対象は筆頭演者として研究発表する場合(渡航期間5日間以上)に限られます。

科目等 履修生制度 (MDプログラム)

科目等履修生制度(Multi Doctorプログラム)は、次世代の研究者を育成するために、本学の学部在学生在が科目等履修生として大学院の教育を受け、研究マインドを醸成するものです。医学部、歯学部、薬学部の第4学年以上を対象とし、大学院の専門的な科目を受講する十分な学力があると認められた学生が、医学研究科、歯学研究科、薬学研究科のひとつを選択して修学できます。学部卒業後、決められた期間に大学院に入学した場合、科目等履修生として修得した単位は、修了必要単位として算入することができ、早期から論文作成に向けて研究に集中することができます。

大学院データ

奨学金制度

◆昭和大学独自の奨学金制度

名称	制度の内容	給付/貸与	対象研究科	対象者	給付額/貸与額	給付期間
昭和大学 大学院奨学金	昭和大学大学院奨学金給付制度は、学生が経済的理由により大学院に進学できないことや、研究を断念することがないよう、また、優秀な学生に対して学業を奨励し、本学全体の学術研究の質的レベルの向上を図るために設けられた奨学金給付制度(返還義務のない奨学金)です。※学費納付後に給付されます。	給付	全研究科	日本に生活基盤を有さない外国籍の学生で、本奨学金以外の奨学金の給付を受けていない者	1年次 60万円/年 2年次～4年次 50万円/年	標準 修業 年限
			薬学研究科	薬学研究科に在籍する学生 ※2024年4月入学者まで		
			医学研究科 歯学研究科	学部5・6年次に本学学部特別奨学金の給付を受けていた者	1年次～4年次 40万円/年	
大学院 特別奨学金	大学院特別奨学金は、特別奨学生が経済的理由により、大学院進学を断念することがないよう、また、学業に専念できるよう設けられた奨学金給付制度です。※学費納付後に給付されます。	給付	薬学研究科	学部5・6年次に本学学部特別奨学金の給付を受けていた者	1年次～4年次 120万円/年 ただし、臨床研修薬剤師期間を除く	
学校法人 昭和大学 奨学金	学校法人昭和大学奨学金は、修学が困難な学生に貸与し、優秀な人材を育成するために設けられた貸与型の奨学金です。	貸与	全研究科	一般枠の学生で、日本学生支援機構による奨学金の採用をされなかった者	50万円/年	1年間

※他の奨学金給付制度(返還義務のない奨学金)との併用はできません。
※奨学金制度については変更になる場合があるため、最新の情報はホームページ、入試要項等をご覧ください。

◆昭和大学以外の奨学金制度

名称	制度の内容	給付/貸与	対象研究科	対象者	給付額/貸与額	給付期間
岩垂育英会	岩垂育英会は、生命科学、特に、歯科基礎医学を研究する大学院生で、学術優秀でありながら経済的理由によって、修学が困難なものに対して奨学援助を行うことにより、将来有用な歯科基礎医学研究者の人材を育成することを目的としています。	給付	歯学研究科	歯学研究科に在籍する学生	5万円/月	1年間
森田奨学 育英会	森田奨学育英会は、学術優秀、品行方正、身体強健でありながら、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行い、もって社会有能な人材を育成すること並びに歯科医学医術向上のため奨学事業を行うことを目的としています。	給付	歯学研究科	歯学研究科の4年生	3万円/月	1年間
日本学生 支援機構	日本学生支援機構は、経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し、奨学金を貸与しています。	貸与	全研究科	全大学院生	5万円～15万円/月	標準 修業 年限

※日本学生支援機構については業績優秀者返還免除制度があります。(無利子貸与奨学金のみ)

研究科 募集要項

※詳細は入試要項、各研究科のHPでご確認ください。

医学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季Ⅰ期・秋季：8月/春季Ⅱ期：2月
募集人員	春季Ⅰ期：一般・社会人各30名/春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法	外国語試験(英語)および志望専門科目(口頭試問等)

歯学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季Ⅰ期・秋季：8月/春季Ⅱ期：2月
募集人員	春季Ⅰ期：一般22名・社会人若干名/春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法	外国語試験(英語)および志望専門科目(口頭試問等)

薬学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季Ⅰ期・秋季：8月/春季Ⅱ期：2月
募集人員	春季Ⅰ期：一般・社会人15名/春季Ⅱ期・秋季：一般・社会人各若干名
選抜方法	外国語試験(英語)および志望専門科目(口頭試問等)

保健医療学研究科



入学時期	春季：4月/秋季：10月
入試時期	春季：11月/秋季：8月
募集人員	春季：前期20名・後期6名/秋季：前・後期ともに若干名
選抜方法	前期：英語・小論文および面接/後期：英語および志望専門科目

学 費

	入学金	授業料(年額)	実習費(年額)	施設費	合 計
医学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	300,000円	900,000円
歯学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	300,000円	900,000円
薬学研究科	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円
保健医療学研究科 (博士前期課程)	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円
保健医療学研究科 (博士後期課程)	100,000円	400,000円	100,000円	100,000円	700,000円

※入学金と施設費は、初年度のみ納付 ※施設費は、本学出身者は免除

●昭和大学大学院についての問い合わせはこちらまで

昭和大学学事部大学院課 [医学研究科・歯学研究科・薬学研究科]
〒142-8777 東京都品川区旗の台1-9-14 TEL:03-3784-8793
Mail:daigakuin@ofc.showa-u.ac.jp

昭和大学学事部長津田校舎事務課 [保健医療学研究科]
〒226-8555 神奈川県横浜市緑区十日市場町1865 TEL:045-985-6503
Mail:nrkyoumu@ofc.showa-u.ac.jp